

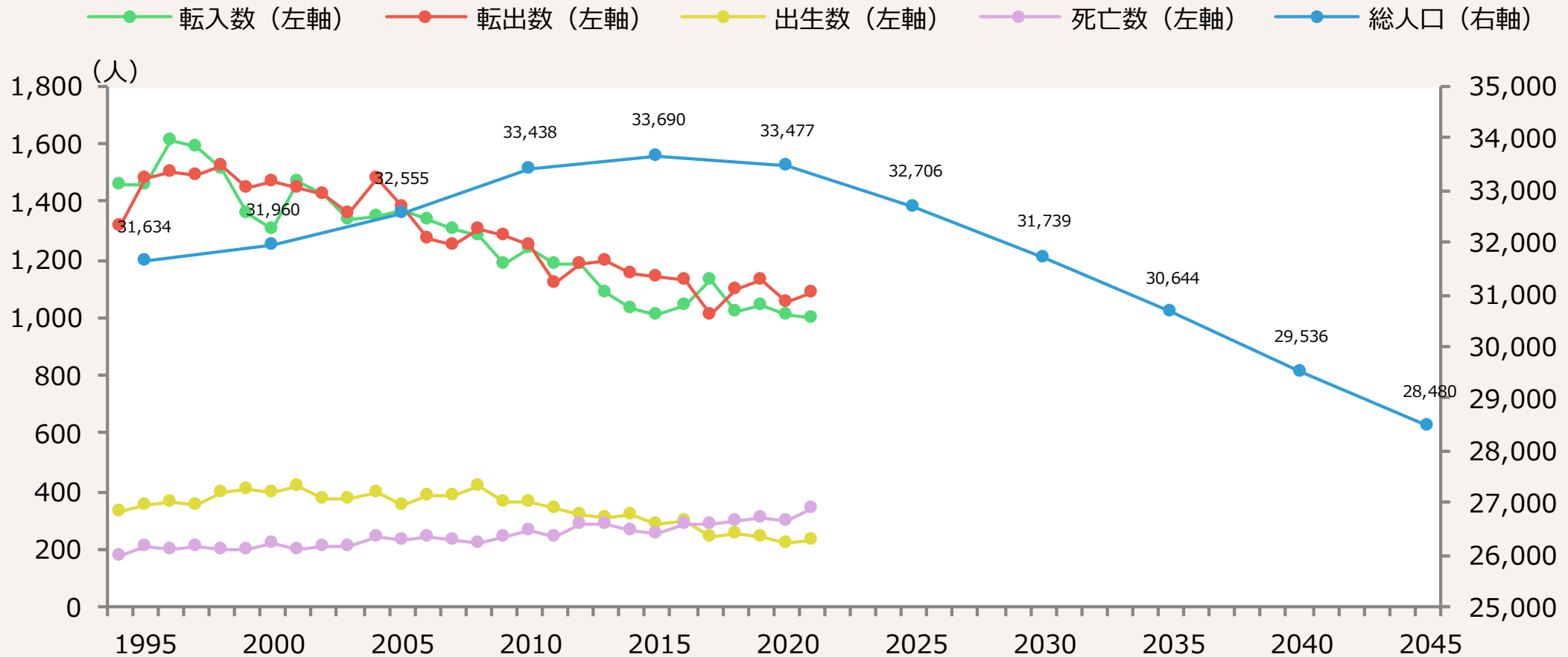


# 持続可能なまちづくりに向けて-

## — 行財政改革の取組 —

## 【まちの現状 ①】 人口動態から見たまち

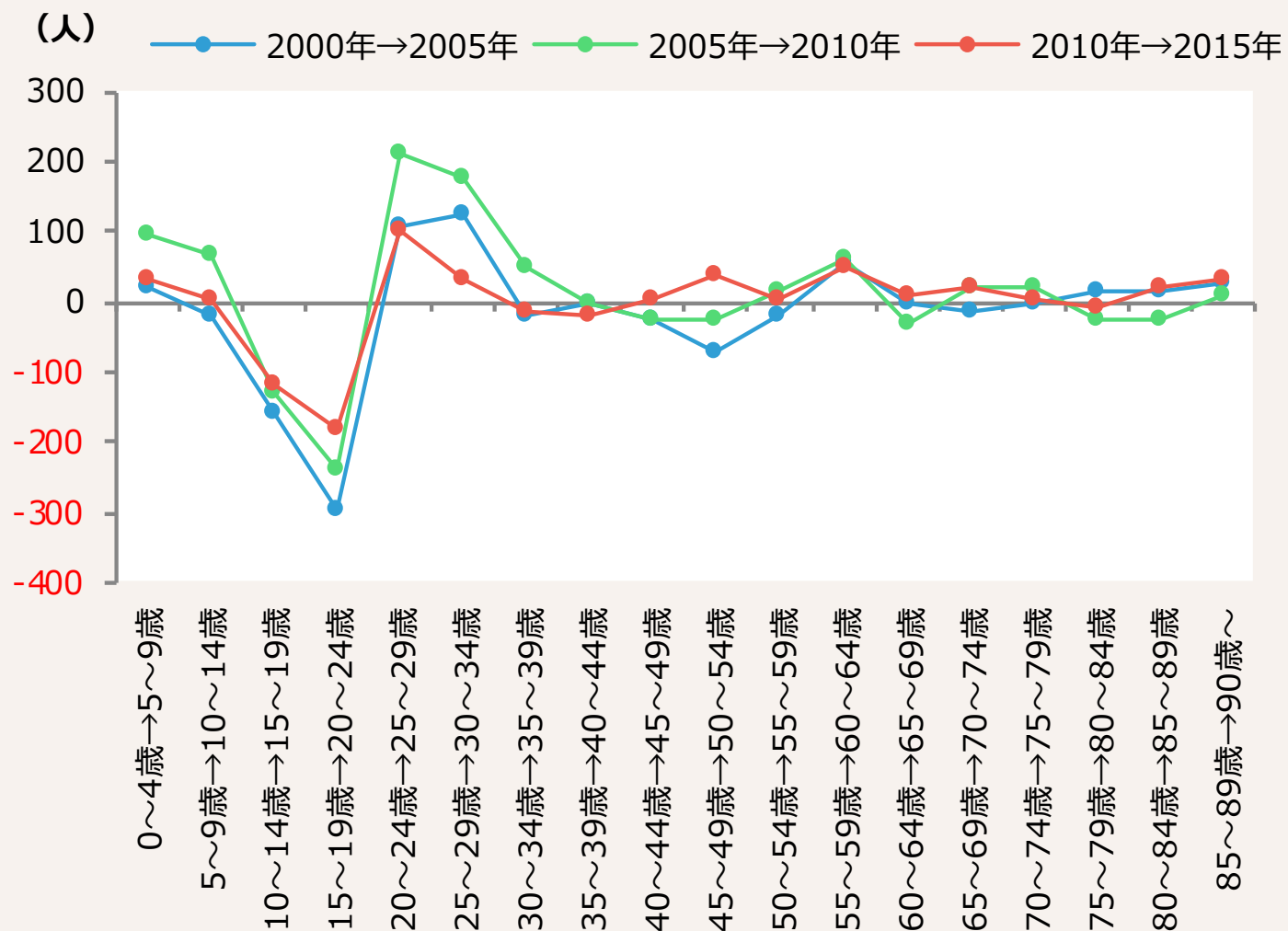
出生より死亡、転入より転出が多くなり、人口減少が進んでいます。



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」



## 【まちの現状 ②】 社会移動の5年検証



自地域の労働力に大きな影響を与える生産年齢層の社会移動の経年変化等を把握するためのグラフです。

高校、大学等を契機として転出傾向があることは、全国的な地方の傾向ですが、大学卒業年齢後の転入が多くみられるのが本町の嬉しい特長です。

60歳を迎える年齢層の流入が多いのは、定年後に故郷に戻ってくる方が多いこととみています。

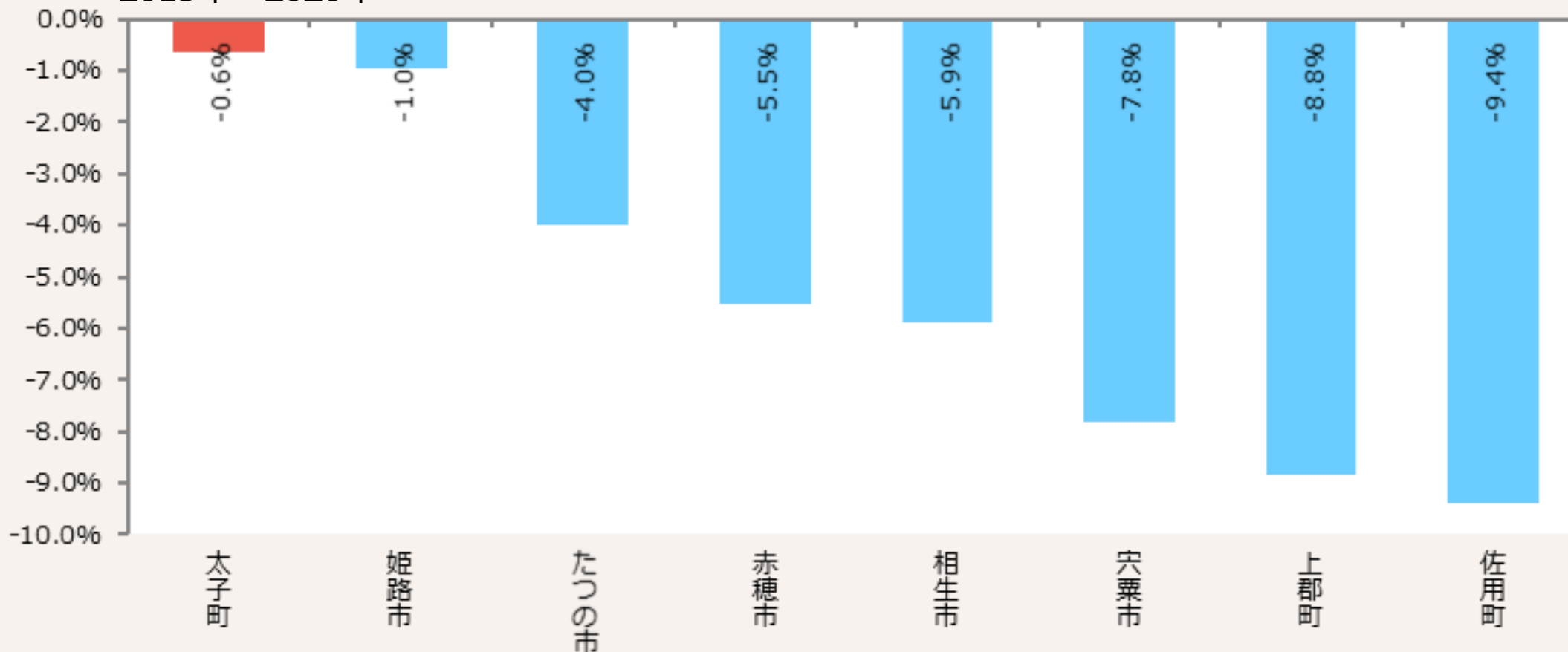


## 【まちの現状 ③】 西播磨市町の人口増減率の比較

近隣市町に比べて人口減少は緩やかですが、今後も減少傾向がきます。

(人口増減率：%)

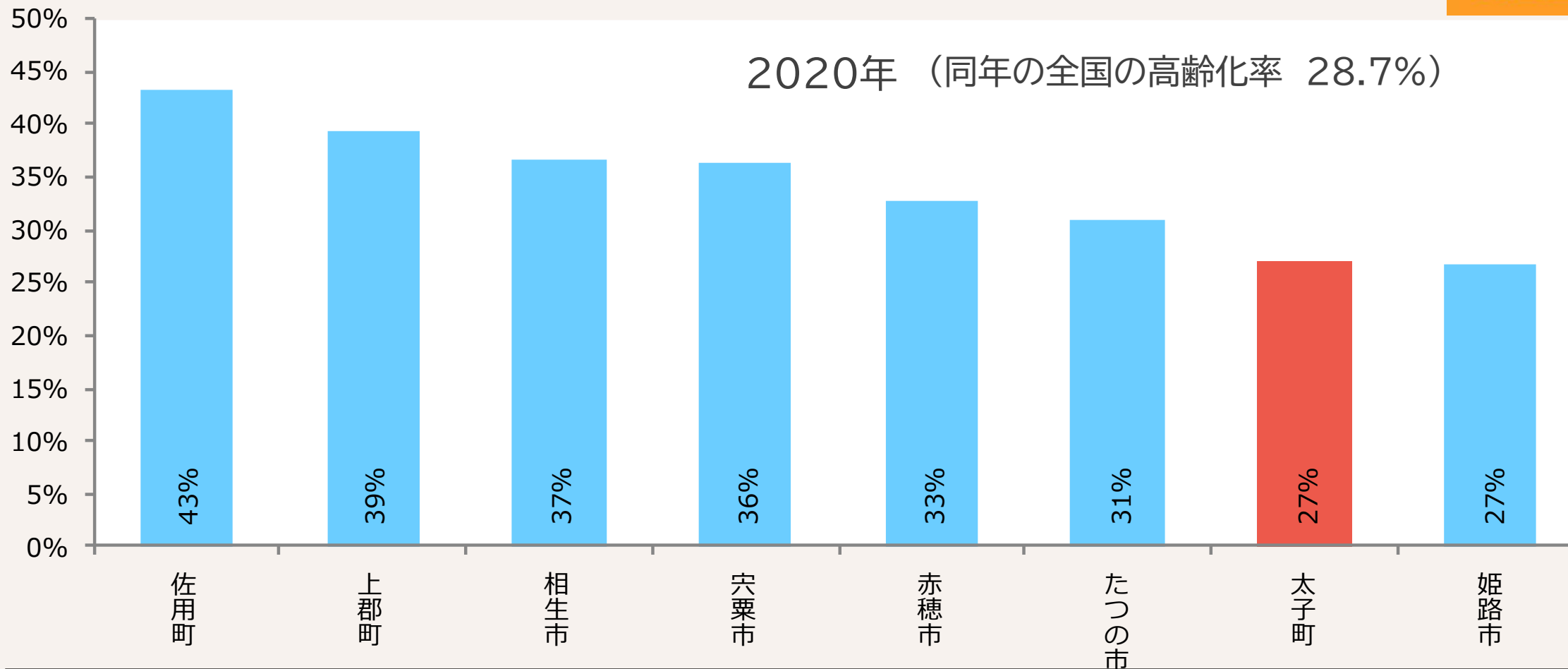
2015年→2020年





## 【まちの現状 ④】 西播磨市町の高齢化率の比較

(高齢化率：%) 団塊の世代の構成比が高いため、急激な高齢化が見込まれます。



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

## 【まちの現状 ⑤】 社会増減・自然増減の比較

令和5年度は西播磨の人口が約3,400人減少しています。

11 住み続けられる  
まちづくりを



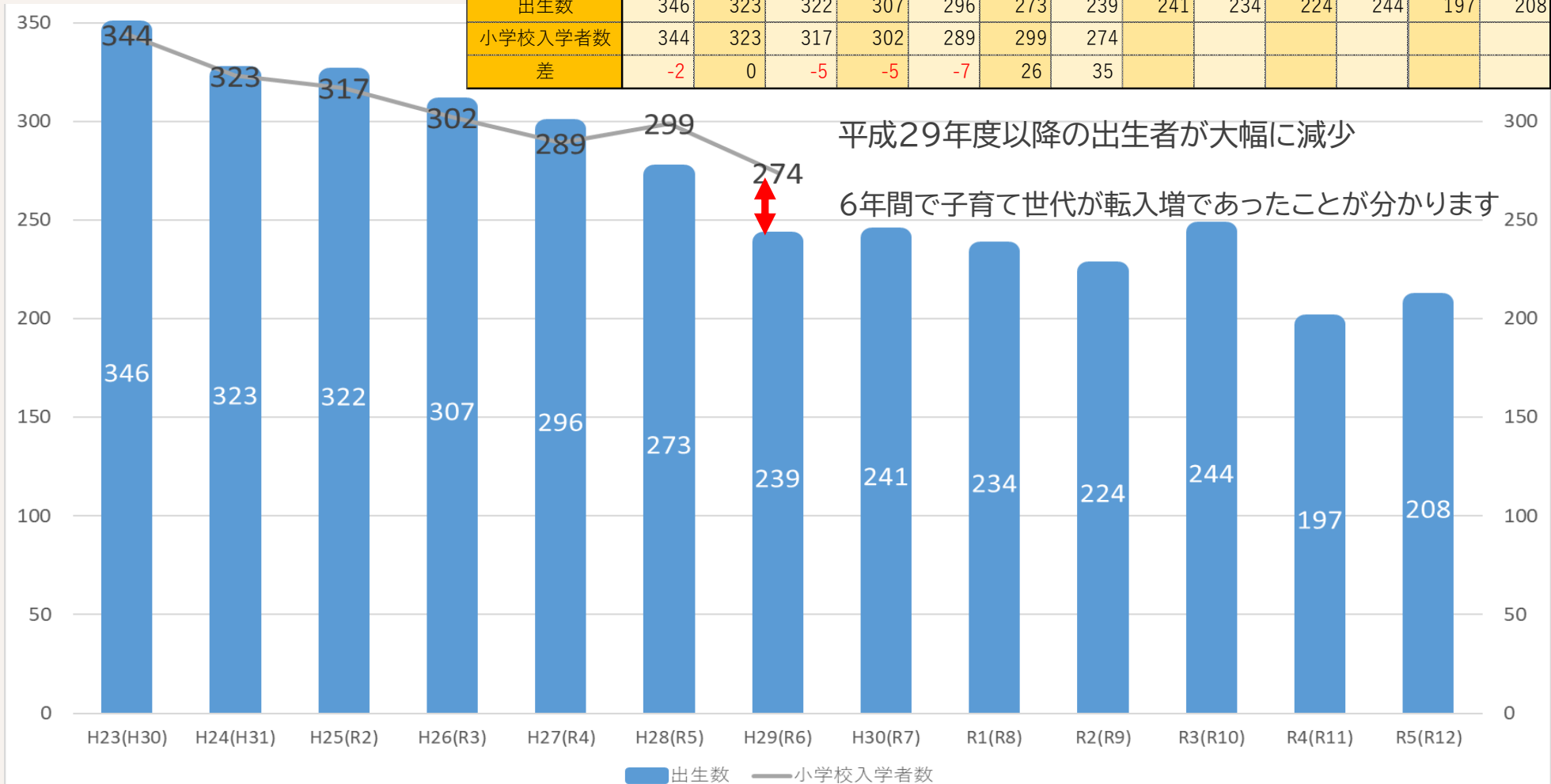
	社会増減					社会増減率	自然増減			自然増減率	人口			増減率
	社会増①		社会減②		①-②		自然増③	自然減④	③-④		前年度末	当該年度末	減人数	
	転入	その他増	転出	その他減	差引		出生	死亡	差引					
相生市	756		912		-156	-0.56	109	468	-359	-1.29	27,759	27,244	-515	-1.86
赤穂市	1,095	9	1,242	14	-152	-0.34	206	664	-458	-1.01	45,174	44,564	-610	-1.35
たつの市	1,931	11	2,121	29	-208	-0.28	385	983	-598	-0.81	73,649	72,843	-806	-1.09
宍粟市	648	6	890	1	-237	-0.68	131	583	-452	-1.29	34,981	34,292	-689	-1.97
上郡町	383	0	413	0	-30	-0.21	53	227	-174	-1.24	14,017	13,802	-204	-1.46
佐用町	319	4	471	6	-154	-1.00	49	296	-247	-1.61	15,339	14,938	-401	-2.61
太子町	1,074	65	1,092	69	-22	-0.07	208	357	-149	-0.44	33,645	33,474	-171	-0.51

【出典】西播磨市町人口調査

# 【まちの現状 ⑥】

## 町内出生数と小学校入学者数の推移

出生年度(入学年度)	H23(H30)	H24(H31)	H25(R2)	H26(R3)	H27(R4)	H28(R5)	H29(R6)	H30(R7)	R1(R8)	R2(R9)	R3(R10)	R4(R11)	R5(R12)
出生数	346	323	322	307	296	273	239	241	234	224	244	197	208
小学校入学者数	344	323	317	302	289	299	274						
差	-2	0	-5	-5	-7	26	35						

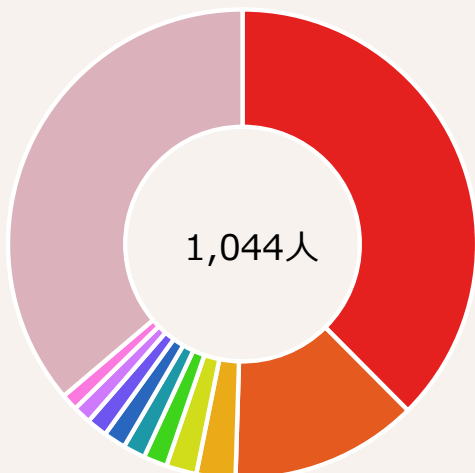




## 【まちの現状 ⑦】

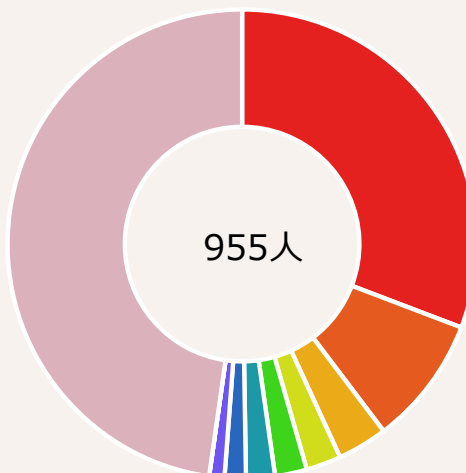
## 転入元、転出先市町まとめ

転入数内訳 (2022年)



- 1位 兵庫県姫路市 (392人)
- 2位 兵庫県たつの市 (135人)
- 3位 兵庫県相生市 (28人)
- 4位 兵庫県加古川市 (22人)
- 5位 兵庫県高砂市 (17人)
- 6位 兵庫県宍粟市 (16人)
- 7位 兵庫県赤穂市 (16人)
- 8位 兵庫県明石市 (15人)
- 9位 兵庫県西宮市 (13人)
- 10位 兵庫県尼崎市 (12人)
- その他 (378人)

転出数内訳 (2022年)



- 1位 兵庫県姫路市 (294人)
- 2位 兵庫県たつの市 (85人)
- 3位 兵庫県加古川市 (33人)
- 4位 兵庫県明石市 (23人)
- 5位 兵庫県相生市 (21人)
- 6位 兵庫県赤穂市 (19人)
- 7位 兵庫県神戸市中央区 (14人)
- 8位 岡山県岡山市北区 (10人)
- 9位 兵庫県宍粟市 (0人)
- 10位 兵庫県高砂市 (0人)
- その他 (456人)

転入、転出ともに、隣接する姫路市及びたつの市への異動が多くなっています。

加古川市、明石市に加え、神戸や岡山市への転出も多く見受けられます。

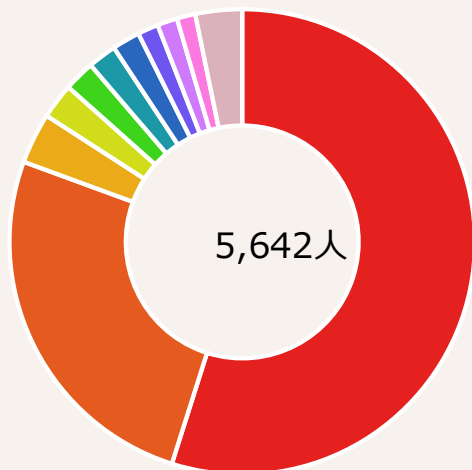
転入元市町を基準として、その市町への転出市町を記載しています。





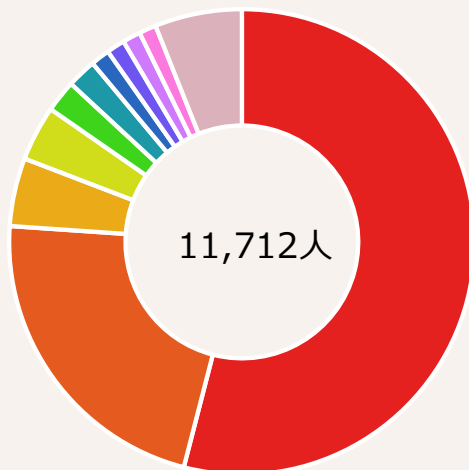
## 【まちの現状 ⑧】 流入元、流出先市町まとめ

流入者数内訳（2020年）



- 1位 兵庫県姫路市 (3,097人)
- 2位 兵庫県たつの市 (1,450人)
- 3位 兵庫県相生市 (199人)
- 4位 兵庫県加古川市 (139人)
- 5位 兵庫県赤穂市 (121人)
- 6位 兵庫県宍粟市 (112人)
- 7位 兵庫県明石市 (109人)
- 8位 兵庫県高砂市 (81人)
- 9位 兵庫県上郡町 (79人)
- 10位 兵庫県神戸市 (72人)
- その他(183人)

流出者数内訳（2020年）



- 1位 兵庫県姫路市 (6,327人)
- 2位 兵庫県たつの市 (2,585人)
- 3位 兵庫県神戸市 (555人)
- 4位 兵庫県相生市 (449人)
- 5位 兵庫県赤穂市 (260人)
- 6位 兵庫県加古川市 (239人)
- 7位 兵庫県明石市 (155人)
- 8位 大阪府大阪市 (149人)
- 9位 兵庫県高砂市 (146人)
- 10位 兵庫県上郡町 (139人)
- その他(708人)

「流入者」とは、太子町外に居住し、太子町へ通勤・通学する人をいいます。

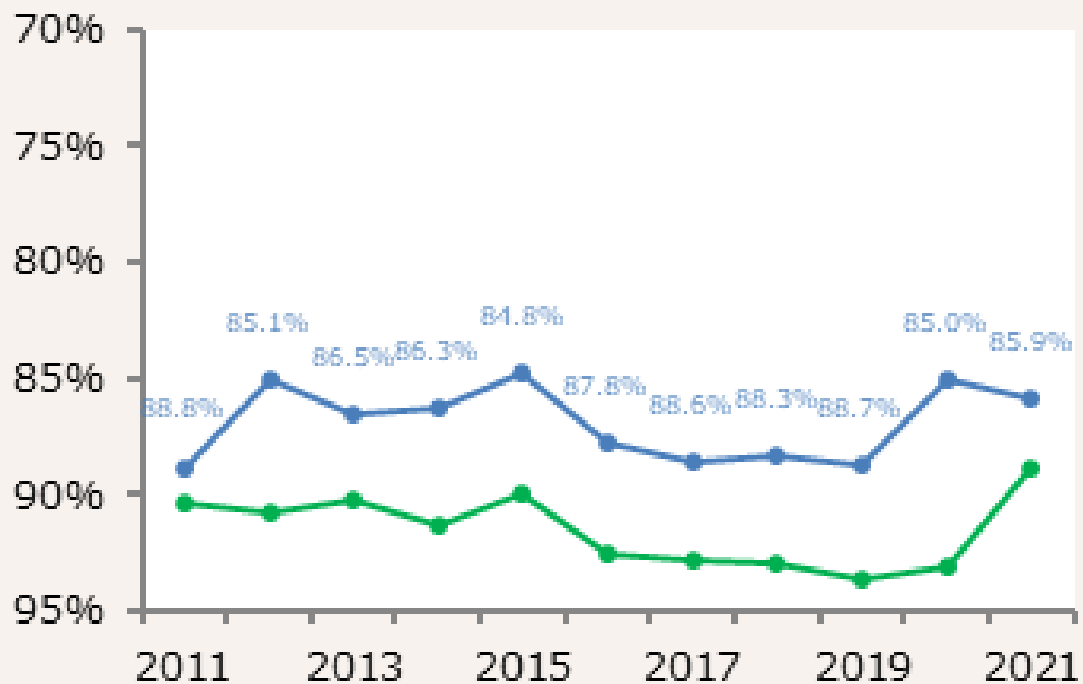
「流出者」とは、太子町に居住し、町外へ通勤・通学する人をいいます。いずれも国勢調査結果から得られる資料ですが、ベッドタウンとして発展してきた町の特性が分かる資料と考えています。



## 【まちの現状 ⑨】 財政指標の推移

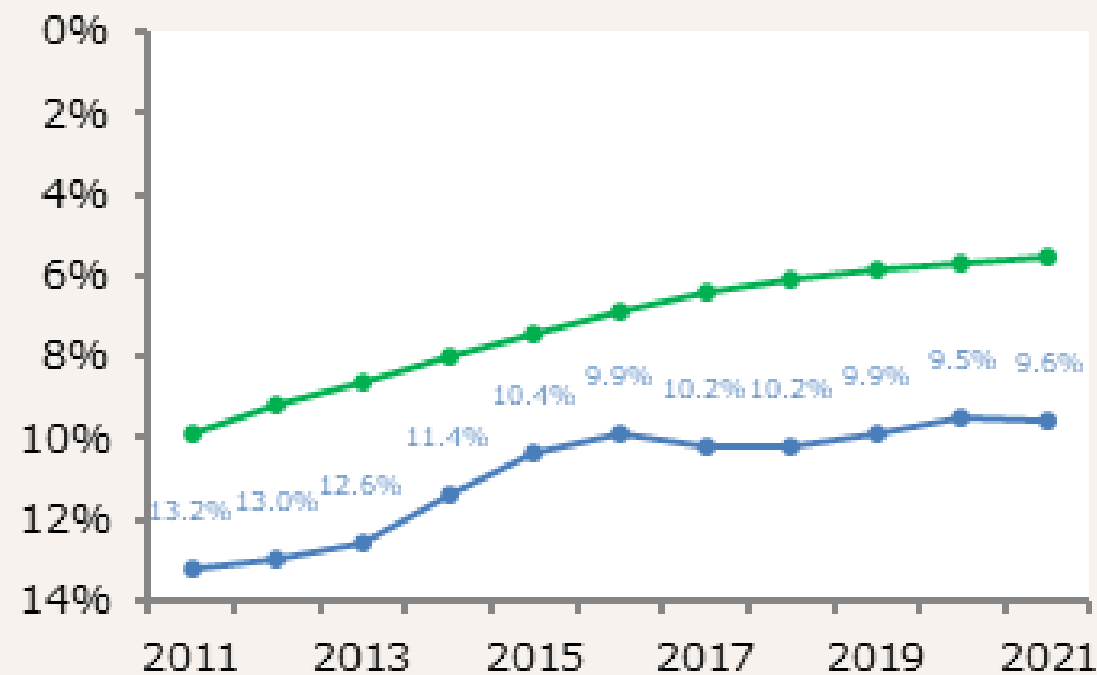
### 経常収支比率

財政構造の弾力性を示す指標  
(比率が高いほど財政が厳しい)



### 実質公債費比率

借入金の返済額等の規模の指標  
(比率が高いほど財政が厳しい)



【出典】総務省「地方財政状況調査関係資料（財政状況資料集）」

【注記】人口あたり職員数：都道府県の場合は人口10万人、市町村（特別区を含む）の場合は人口千人あたりの職員数。

## 【まちの現状 ⑩】 財政指標の指標

11 住み続けられる  
まちづくりを



主要な財政状況を示す指標を兵庫県内の市町と比較した順位です。  
今後、文化会館、保健福社会館、道路、橋梁等の更新時期が迫っており、持続可能なまちづくりのためには、抜本的な行財政改革が必要です。

財政指標	2021値	県内順位	2022値	(2023参考値)
財政力指数	0.66	20/41	0.64	(0.62)
経常収支比率	85.9%	14/41	89.5%	(89.8%)
実質公債費比率	9.6%	27/41	10.6%	(11.3%)
将来負担比率	40.2%	24/41	31.0%	(20.1%)
人口あたり職員数 (職員数が少ない)	5.47人	3/41		
人口1人あたり人件費物件費等の決算額	90,527円	1/41		
ラスパイレス指数 (国家公務員が100)	97.5	15/41		

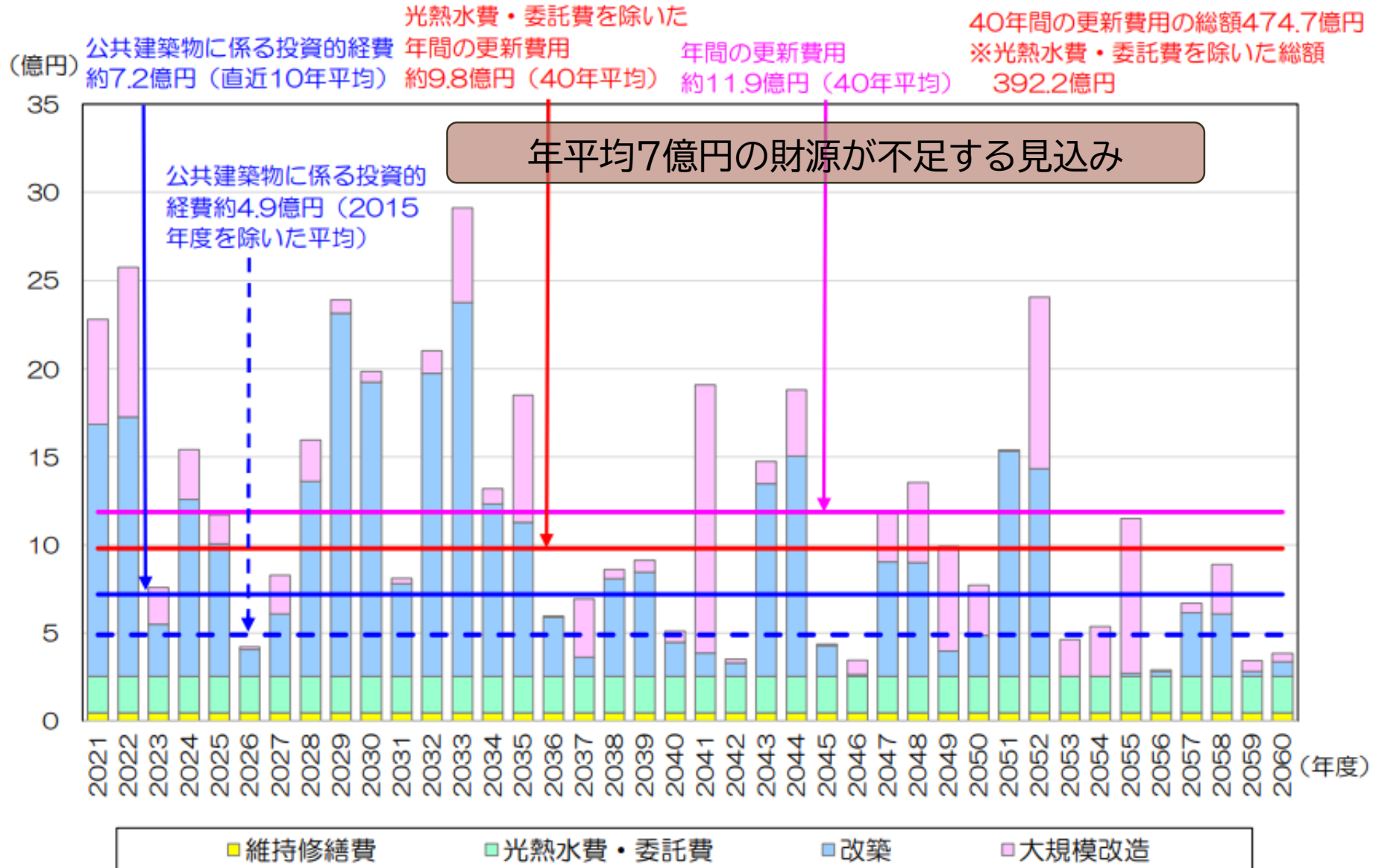
※今後大きな 施設更新等が控えており、財政指標の健全化の推進が必要です。

【出典】総務省「地方財政状況調査関係資料（財政状況資料集）」

【注記】人口あたり職員数：都道府県の場合は人口10万人、市町村（特別区を含む）の場合は人口千人あたりの職員数。

# 【まちの現状 ⑪】

## 太子町公共施設等総合管理計画（R4.3改訂）





## 今後の主な大型事業

- 文化会館改修工事(R7~R8)
- 保健福祉会館改修工事(R7)
- 総合公園陸上競技場改修工事(R7)
- 揖龍クリーンセンター建替工事(R13供用開始予定)
- 跨線橋関係(長金陸橋、太子陸橋、中道跨線橋)
- 水道管、下水道管の更新、耐震



# 太子町行財政改革推進プラン

町総合計画（実施計画）と連動、PDCAサイクルで確認

（R6.3策定）

## 【 前期プラン：R5～R6 】

- ・ 職員の意識改革、働き方改革等
- ・ 実現可能な改革項目の先行着手
- ・ 公共施設の最適化検討、見直しの検討
- ・ 町補助金等の見直し検討

## 【 後期プラン：R7～R11 】

- ・ デジタル化推進による業務改革
- ・ 公共施設の最適化  
（民間委託、指定管理者の推進）
- ・ 町補助金等の見直し、再配分
- ・ 施設使用料等の見直し  
（受益者負担の適正化）



## 行財政改革の主な取組内容 ～ 歳入確保、歳出削減に向けて ～

- ・ 旧役場庁舎跡地民間活用 1,200万円/年
- ・ 保育園用地売却 5,000万円
- ・ 長金陸橋の廃橋の取組 約50億円
- ・ 町事業、補助金等の見直し 団体協議中
- ・ 使用料等の見直し（受益者負担の適正化、町内町外の別）
- ・ 公共施設の最適化（未活用施設等の民間提案募集含む）
  - 保健福祉会館内旧入浴施設 ➡ 石海公民館、シルバー人材センター
  - 旧ふれあいホール ➡ 教育支援センター「みらいえ」
- ・ ネーミングライツの導入（丸尾建築あすかホール、町民体育館等）











# 行財政改革の主な取組内容

## ～ 業務改善、事業見直しの取組 ～

- ・ こどもえがお課の設置(こども窓口のワンストップ化)
- ・ 福祉総合相談窓口の設置(高齢者、障害者等の窓口のワンストップ化)
- ・ 龍田幼稚園の休園、民間活力の導入を含めた跡地活用の検討
- ・ 夏休み学習スペースの設置(民間施設等含む)
- ・ 鵜地区、糸井地区の用途区域の見直し
- ・ 沖代、米田地区のまちづくり事業の推進(企業誘致の取組)
- ・ 自治体DX、働き方改革の推進



---

# 「現金等の一括給付」から 「サービスの給付」への 転換

---

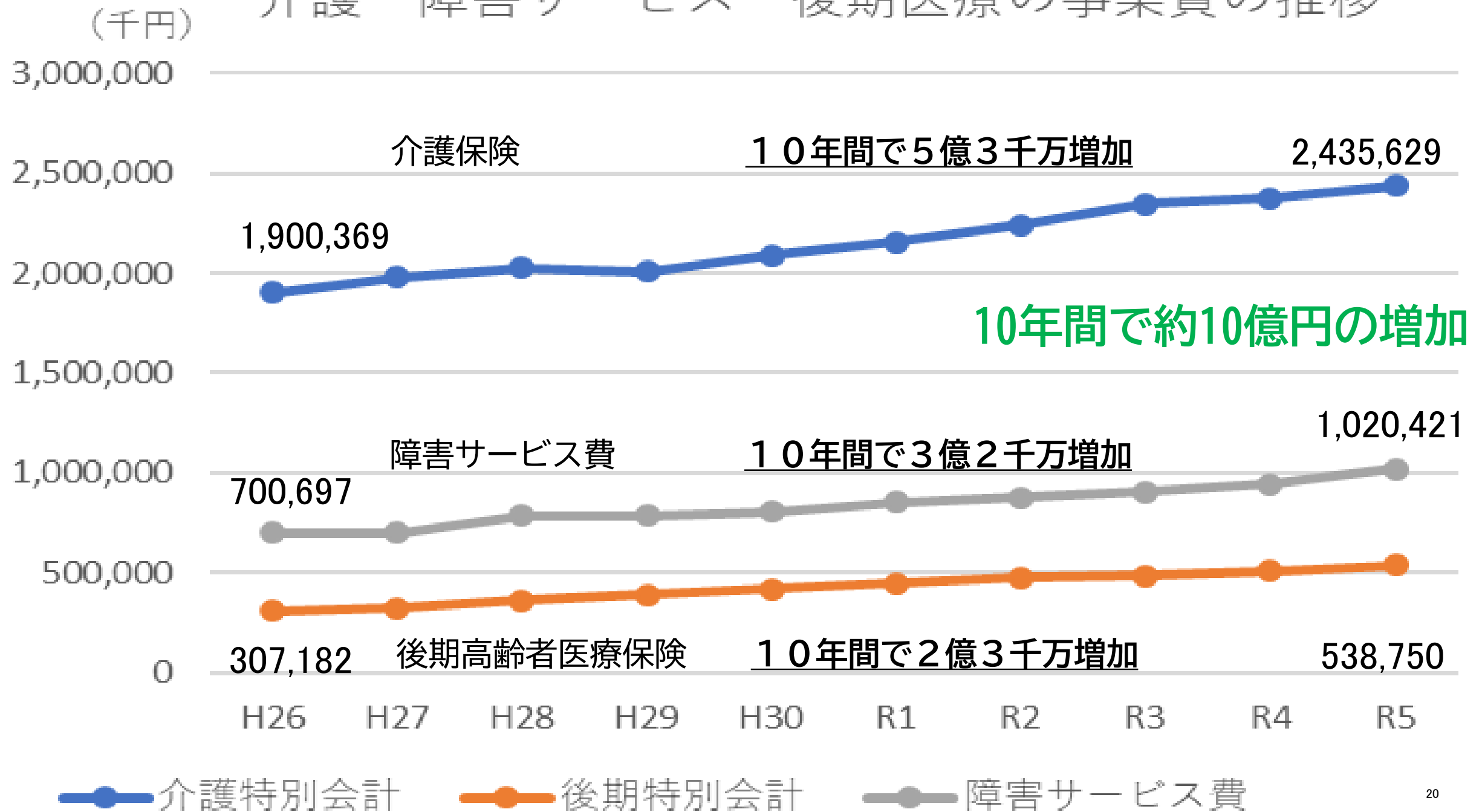
介護保険や後期高齢者医療、障害福祉サービス等の事業費が年々増加しています。

長寿祝金や福祉年金、敬老事業補助金など、現金を一律に配る町単独事業から、国県補助等を活用する、必要なサービス、生活を守るサービスの給付を維持・転換していくことが必要と考えています。

各種団体への補助金についても、皆さんの意見をお聞きしながら、持続可能な形での「サービスの給付」に向けて、仕組みを構築していきます。

---

# 介護・障害サービス・後期医療の事業費の推移





## 行財政改革の主な取組内容

### ～ 新しい補助金等のご紹介 ～

- 若者定住中小企業奨学金返還支援事業（R6～）
- 新規就農者育成総合対策事業交付金（R6～）
- 狩猟免許等取得・更新費補助金（R6～）
- 身体障害児用自転車改造費助成金（R6～）
- 自動録音電話機等購入費補助金（R5～）

---

# 使用料等の基本的な考え方 「受益者負担の原則」

---

使用料とは、文化会館や町民体育館、テニスコートなどの公共施設の利用者に、その管理運営費用を一部負担いただくものです。

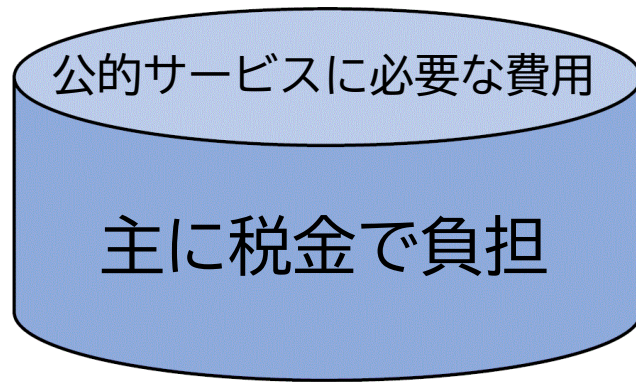
公共施設は、光熱水費や人件費、設備点検費用など多くの費用が必要で、これらの費用をすべて税金で負担することは、表面的に住民サービスが充実しているように見えますが、その税は「利用する住民」だけでなく、多くの「利用していない住民」の税も含まれおり、不公平が生じています。

また、施設の建設や大規模改修などの費用についても、町税で賄われるため、町内外の料金の別を設定することで、税の公平性を確保することが必要と考えています。

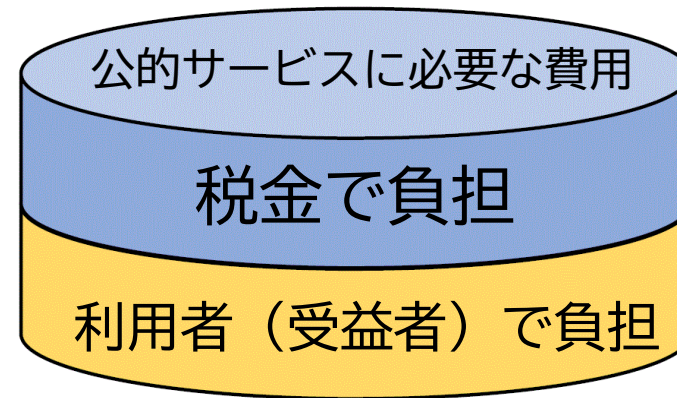
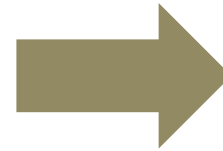
このように、利益を受けた分を利用者に負担してもらうことを

**「受益者負担の原則」** といいます。

# 使用料等の基本的な考え方 「受益者負担の原則」



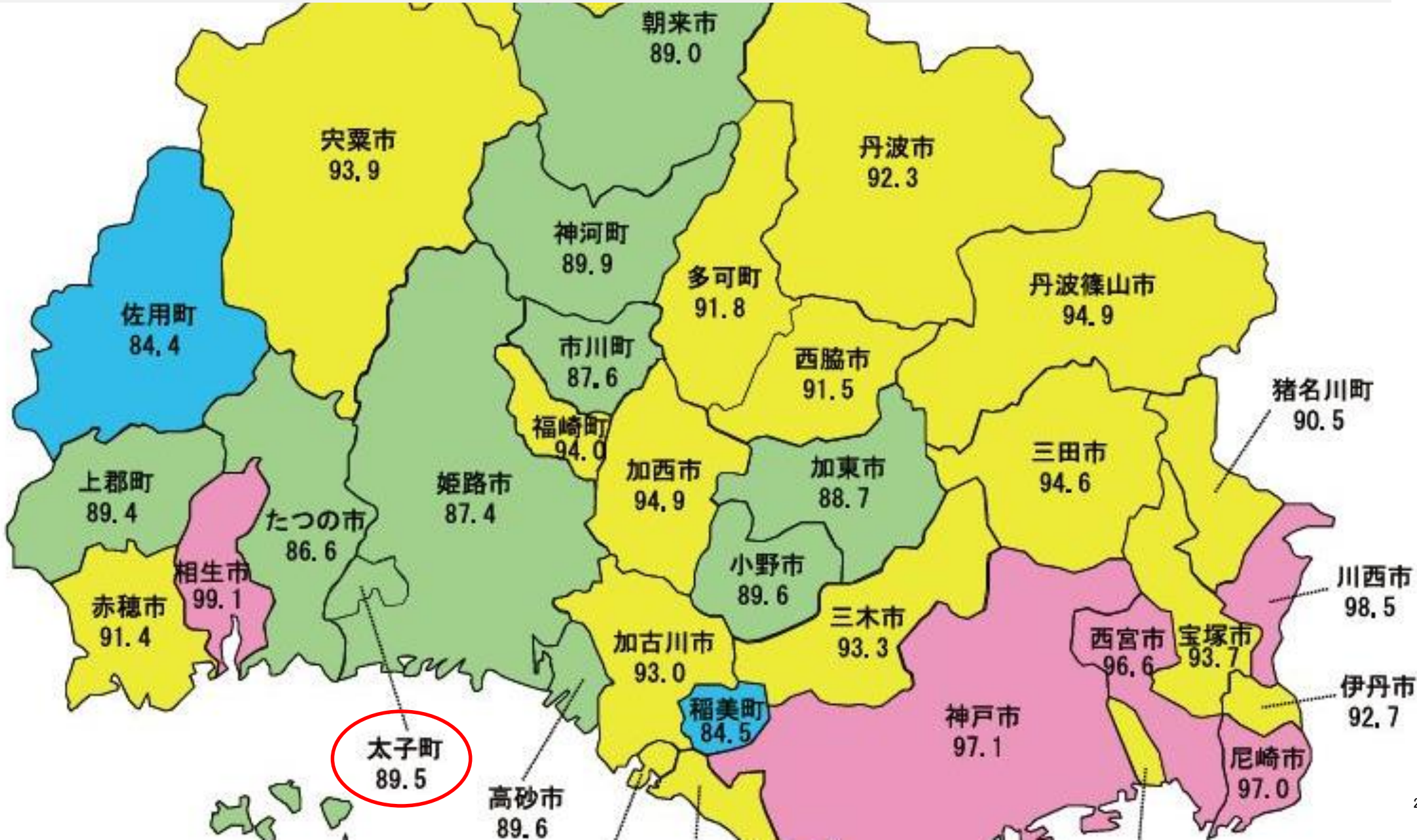
施設使用料等が無料若しくは安価な金額であると、表面的には住民サービスが充実しているように見えますが、利用者以外の税金からも負担されていますので、住民間の不公平が生じています。



利用者に一定の負担を求め、住民間の公平性を図ります。  
これを「受益者負担の原則」といい、法律にも定められています。  
施設の種類、役割に合わせ、明確で統一的な算定基準を設定します。

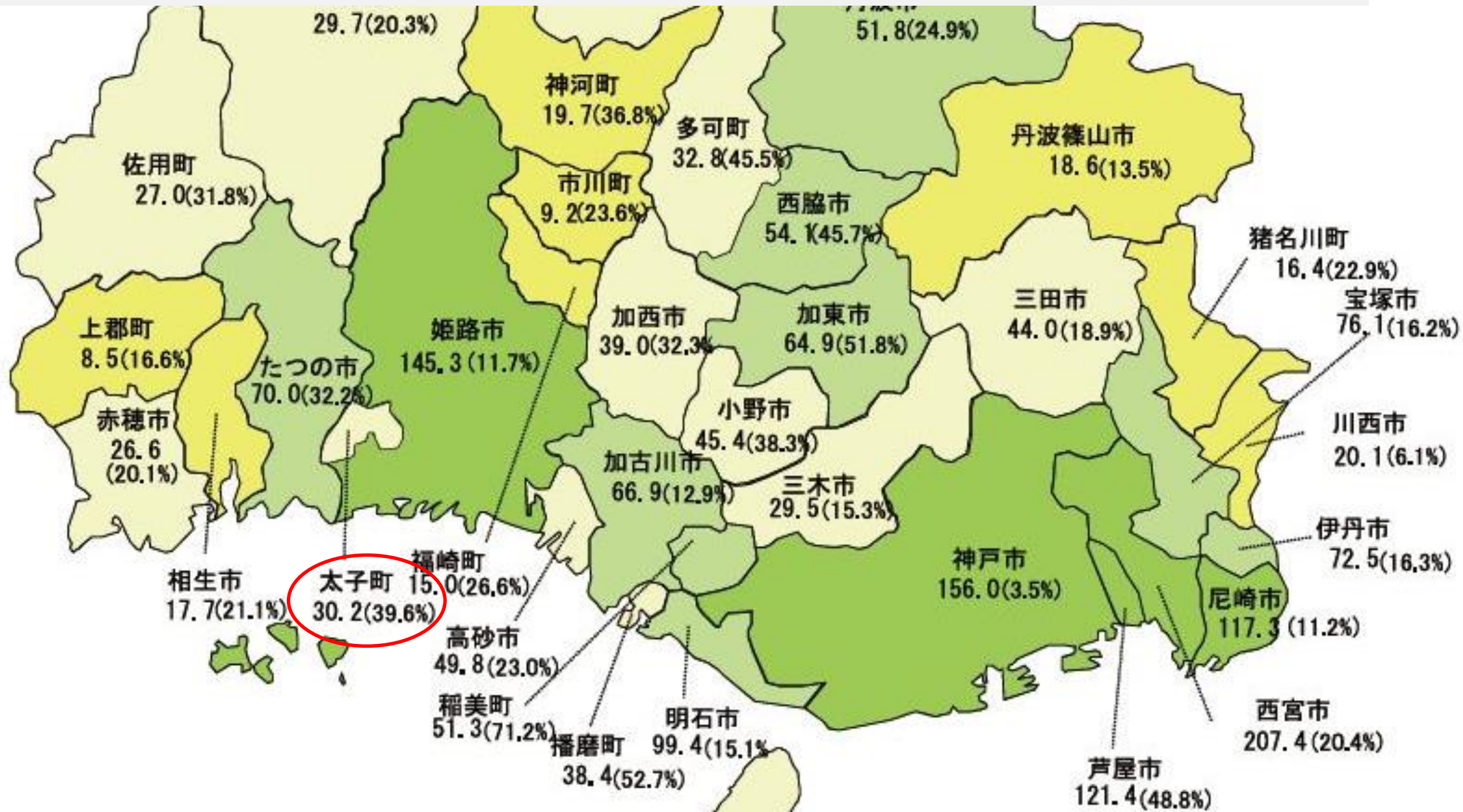


# 令和4年度各市町の経常収支比率(単年度)の状況





# 令和4年度末各市町の財政調整基金残高の状況



## JR跨線橋の変遷

1968年

- ・ 太子陸橋架設：橋長303m（建設後56年が経過）

1971年

- ・ 長金陸橋架設：橋長192m（建設後53年が経過）

1982年

- ・ 中道跨線橋架設：橋長210m（建設後42年が経過）

### 大規模修繕

2013年～

- ・ 長金陸橋修繕工事（H25～H27 約2億）JR上空部未施工

2017年～

- ・ 太子陸橋修繕工事（H28～R3 約8億円）

2022年～

- ・ 中道跨線橋修繕工事（R5～R8 約13億円）



石海小学校

中道跨線橋

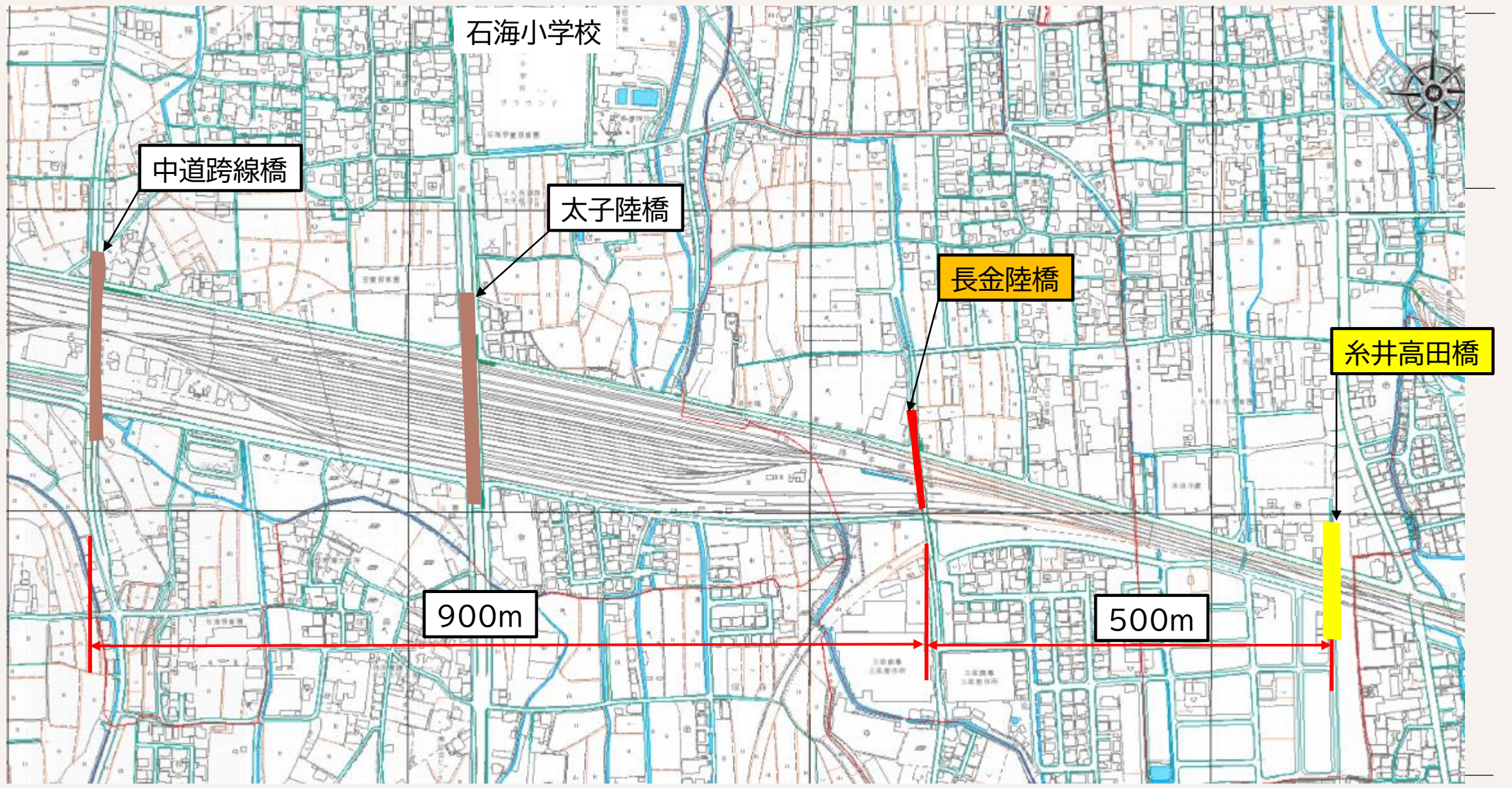
太子陸橋

長金陸橋

糸井高田橋

900m

500m





## 皆さんと進めたい未来

- ・ 持続可能なまちづくり
- ・ 将来世代に負担を回さないまちづくり
- ・ 人口が減る、若者が減ることに対応したまちづくり
- ・ まちへの愛着を深め、  
まちをもっと好きになってもらう取組
- ・ いま住んでいる人がまちづくりに参加し、  
元気な人、元気な地域を増やしていく取組





## 皆さんと進めたい未来

今後も人口は必ず減っていきます。

人も、施設も、財源も今のまま残すことは難しい中、まちが縮小していくことを恐れるのではなく、

人口規模に合ったまちづくりを、住民幸福度の向上を進めていきたいと考えています。

また、事業の廃止（スクラップ）だけでなく、時代に合った事業の構築（ビルド）も進めていきます。



# 縮 充

(第6次太子町総合計画表紙より)



11 住み続けられる  
まちづくりを



子どもたちの笑顔を守りたい、  
増やしたい